

福岡県公安委員会活動状況

<定例会の主な議題及び要旨>

令和4年8月10日（水）

【報告事項】

1 監察関係報告について

（警務部）

警察本部から「第一機動隊員による酒気帯び運転事案について、8月10日付けで懲戒処分（停職6月）とする。再発防止策として、全所属に対して規律の振粛の徹底を指示することとしている。」旨の報告があった。

公安委員から「若手職員による非違事案が続いていることから、遵法精神はもちろん、警察職員を志した際の初心を持ち続けられるような指導についても配慮してもらいたい。また、懲戒処分を受けて辞職した後は元警察職員として社会生活を送っていくことになるので、辞職して終わりではなく、職員のその後の生活も見据えた指導を行ってほしい。」旨の発言があり、警察本部から「若手職員に対しては、警察学校に監察官等を講師として派遣し教養を行うなどしている。また、懲戒処分を受けて辞職する職員に対しても、辞職後の生活等について指導・助言を行っている。」旨の説明があった。

公安委員から「再発防止と職員の士気高揚に努めてもらいたい。」旨の発言があった。

2 刑法犯の認知・検挙状況等について（1～6月）

（生活安全部・刑事部）

警察本部から「刑法犯認知件数は前年同期比で増加し、検挙件数は前年同期比で減少している。認知状況の特徴として、乗り物盗が増加している。性犯罪の認知件数は前年同期比で増加し、検挙件数は前年同期比で減少している。認知状況の特徴として、発生時間帯別にみると、15時から21時までの間に全体の約6割が発生し、被害者の年齢別にみると、10歳代から20歳代が全体の約8割となっている。ニセ電話詐欺の認知件数及び被害額は、ともに前年同期比で増加しており、検挙人員及び阻止件数も増加している。認知状況の特徴として、キャッシュカード等を狙った手口が最も多く、次いで還付金詐欺、架空料金請求詐欺となっている。」旨の報告があった。

公安委員から「刑法犯認知件数では乗り物盗が増加しているが、自転車の窃盗が多いのか。」旨の発言があり、警察本部から「自転車盗の認知件数が前年同期比で357件増加し、被害の約2割が駅の駐輪場で発生していることから、発生実態等を踏まえた抑止対策を講じていく。」旨の説明があった。

公安委員から「性犯罪の認知件数が増加した要因は何か。」旨の発言があり、警察本部から「性犯罪の認知件数が前年同期比で増加した要因の一つとして、既に検挙している強制わいせつ等事件で、これまで未把握だった余罪事件を認知し計上したことが挙げられる。」旨の説明があった。

公安委員から「性犯罪の加害者の年齢層に特徴はあるのか。また、被疑者と被害者には面識がある場合が多いのか。」旨の発言があり、警察本部から「性犯罪の加害者の年齢層に大きな偏りはない。また、被疑者と被害者の関係性については、強性交等の場合は面識があることが多いが、一方で路上における強制わいせつの場合などは面識がないことが多い。性犯罪の認知件数は昨年から増加傾向に転じていることから、様々な分析をしっかりと行い、抑止対策を講じていく。」旨の説明があった。

公安委員から「ニセ電話詐欺について、65歳以上の高齢者が被害の8割を占めているが、その中でも認知症や独居の高齢者が多いのか。被害者の特徴や傾向等进行分析し、対象者に応じた効果的な広報啓発を行ってほしい。」旨の発言があり、警察本部か

ら「ニセ電話詐欺の被害者に認知症や独居の高齢者が多いとは一概に言えないが、発生実態をしっかりと分析し、効果的な広報啓発に努めていく。」旨の説明があった。

3 田川郡川崎町における高齢男性死体の発見について

(刑事部)

警察本部から「8月5日、田川郡川崎町所在の死者方において、近隣住民が室内で死亡している高齢男性を発見し、検視の結果、死者の頭部等に外傷が認められ、司法解剖の結果、死因は外傷性脳障害と判明した。また、死者方から無くなっていた死者名義の車両を運転していた67歳の男性を酒気帯び運転で逮捕しており、同男性の本件への関与も視野に徹底した捜査を行っている。」旨の報告があった。

公安委員から「全容解明に向け、しっかりと捜査してもらいたい。」旨の発言があった。

4 詐欺事件被疑者の逮捕について

(刑事部)

警察本部から「中央警察署、捜査第二課及び捜査第三課は、独立行政法人福祉医療機構が所管する新型コロナウイルス対応支援金による無担保無保証融資について、令和2年7月から同年12月までの間、介護支援事業等を経営する会社の代表取締役を務める被害者に対し、被疑者らに融資の決定権限があるかのように装い誤信させ、被疑者らを通じて融資の申込みをさせ、同機構から1億2,000万円の融資を受けさせた上、同口座から被疑者らが管理する口座に合計5,940万円を振込入金させ、だまし取った詐欺事件について、8月1日、大阪市中央区居住の自称無職の男性ほか4人を逮捕した。」旨の報告があった。

公安委員から「本件は、犯行グループ内での仲違いにより発覚したのか。」旨の発言があり、警察本部から「そのとおりである。今回逮捕した被疑者のうちの1人から別件多額窃盗事件について被害の申告があり、各種捜査を行う過程で本件を認知した。」旨の説明があった。

公安委員から「社会的に耳目を引いている事件であり、今後の捜査により全容解明に努めてもらいたい。」旨の説明があった。

5 第26回参議院議員通常選挙における違反取締結果について

(刑事部)

警察本部から「第26回参議院議員通常選挙に伴い、6月16日以降、選挙違反取締本部を設置して取締りに当たり、那珂川市内の投票所における詐偽投票事件を検挙したほか、文書掲示・頒布違反等について96件の警告を実施した。」旨の報告があった。

公安委員から「詐偽投票は組織的な犯行ではなかったのか。」旨の発言があり、警察本部から「組織的な犯行ではなかった。」旨の説明があった。

6 殺人未遂事件被疑者の逮捕について

(暴力団対策部)

警察本部から「八幡西警察署ほか4警察署及び北九州地区暴力団犯罪捜査課は、平成24年9月13日、北九州市八幡西区の路上において、被害者が乗車する車両が信号停車中のところ、同車両の窓ガラスを叩き割り、所携の刃物で同人の胸部などを突き刺したが、左側胸部刺創等の傷害を負わせるにとどまり、殺害の目的を遂げなかった殺人未遂事件について、7月29日、元五代目工藤會傘下組織組長ほか4人を逮捕した。」旨の報告があった。

公安委員から「工藤會上層部が関与している可能性もあるのか。」旨の発言があり、

警察本部から「工藤會上層部の関与も視野に徹底した捜査を行う。」旨の説明があった。
公安委員から「被疑者の逮捕までに長期間を要した理由は何か。」旨の発言があり、警察本部から「現場に残された証拠が少なく、地道な捜査による証拠の積み重ねが必要であったことから、被疑者の逮捕までに長期間を要したものである。」旨の説明があった。

7 六代目山口組及び神戸山口組に係る対立抗争等事件の発生について

(暴力団対策部)

警察本部から「8月1日、福津市所在の神戸山口組傘下組織事務所において、被疑者らが運転する普通乗用自動車を同事務所に衝突させ、塀等を損壊する建造物損壊等事件が発生し、佐賀県唐津市居住の無職の男性ほか1人を逮捕した。本件は対立抗争に起因するものとみており、今後は、全容解明に向けた捜査や抗争抑止に向けた取締り等に加え、関係箇所における警戒・職務質問の強化や発生地域周辺の安全確保に向けた取組等を推進する。」旨の報告があった。

公安委員から「被疑者が白昼にこのような犯行に及んだ理由は何なのか。」旨の発言があり、警察本部から「犯行の動機については捜査中であるが、暴力団の抗争をめぐっては、過去にも、本件と同様に車両を建物等に衝突させる手口の事件が発生している。」旨の説明があった。

公安委員から「本件の全容解明を図るとともに、県民の安全確保についても万全を期してもらいたい。」旨の発言があった。

8 飲酒運転撲滅週間の取組について

(交通部)

警察本部から「8月25日から8月31日までの間、飲酒運転撲滅条例で設定された本週間を飲酒運転撲滅に向けた絶好の機会と捉え、徹底した取締りと自治体を始めとする関係機関・団体と連携した官民一体の広報啓発活動を展開することにより、県民の飲酒運転撲滅機運の更なる高揚を図る。主な取組として、県下一斉飲酒運転撲滅特別取締りを始めとする交通指導取締りや民放特別番組へのテレビ出演などの広報啓発活動を実施するほか、8月18日には、建設業団体との飲酒運転撲滅に関する協定の締結を予定している。また、8月25日には北九州国際会議場において福岡県飲酒運転撲滅県民大会が開催され、飲酒運転撲滅メッセージの発信や若者による飲酒運転撲滅宣言などが行われる。」旨の報告があった。

公安委員から「一方的な情報発信にとどまらず、福岡県飲酒運転撲滅県民大会を始めとした県民を巻き込んだ取組が予定されていることから、ぜひこの機会に飲酒運転撲滅機運の更なる高揚を図ってもらいたい。」旨の発言があり、警察本部から「関係機関・団体とも連携し、効果的な活動を行っていく。」旨の説明があった。

公安委員から「飲酒運転の撲滅に向けた各種取組については、今回の建設業団体との協定の締結のように、関係機関・団体と連携して進めていくことが重要だと思われるので、今後ともしっかり取り組んでもらいたい。」旨の発言があった。

【その他の報告事項】

警察本部から「職員の逮捕事案を始め非違事案が続いており、このような事態を大変重く受け止めている。事案への厳正な対処はもちろんのこと、再発防止及び規律の振粛の徹底に向けた措置を講じていくとともに、仕事で成果を上げ、県民の信頼回復に努めていく。」旨の発言があった。